

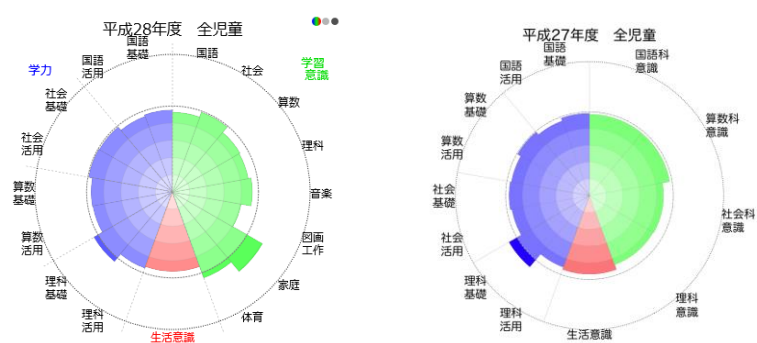
1 学校の状況と地域の実態

- (1) 教員の研究・研修が定着しており、講師を招聘した研修や研究授業などの校内研修にも積極的に取り組んでいる。また、経験の浅い教師に中堅層の教師が支援にあたって（メンターチーム研修）、人材育成や授業力向上を職員全体で目指している。
- (2) 特別な教育的支援が必要な児童について学校全体で把握し、児童指導専任・特別支援教育コーディネーターと共に一人ひとりの支援の仕方を考え、支援に取り組んでいる。
- (3) 「学校運営協議会」「学校教育ボランティア事務局」を設置し、地域に根差した学校・まちと共に歩む学校づくりを進めている。

2 今後3年間の方向（中期学校経営方針）

- 誰もが日々の学校生活に期待感をもち、楽しくなるような学校づくりを進めます。
- 全職員が主体的に学校運営に参画し、創意工夫を生かした教育活動を実践します。
- 児童・保護者・教職員・地域が信頼で結ばれ、豊かな学びができるようにします。

3 横浜市学力学習状況調査からの平成28年度の実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

全体的には、横浜市の平均とほぼ同じ学力である。基礎的な学力については、ほぼ横浜市の平均である。その一方、それを活用し応用する問題についてはあまり得意ではない傾向が見られる。学年によって、得意・不得意な教科にはばらつきが見られる。児童ひとりひとりが学ぶ意欲を持ち、学習意識を高めていけるような授業づくりが今後必要である。

(2) 教科学習の状況

- 国語：全体的には市の平均的な学力である。基礎・基本問題で市の平均を上回っている学年が多い。
- 算数：市の平均と同じぐらいの学力をもっている。多くの学年が「知識・理解」で市の平均を上回っている。
- 社会：学年によって得意・苦手分野のばらつきがあるが、市の平均と同じぐらいの学力をもっている。
- 理科：基礎・基本問題でほとんどの学年が市の平均を上回っている。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学校全体として、学力は横浜市平均と同じぐらいの力を保っている。理科・社会の学力が高くなっている学年が増えている。

その一方で、国語・算数の学習が好きだと答えた児童が少ない傾向が見られる。どの教科でも学習への高い興味・関心が高い学力へとつながっているため、学年の実態に応じて興味・関心を引き出しながら「しっかり教え、しっかり引き出す指導」を充実させていきたい。そして、文章を読むことに慣れることで、目的に応じて内容の中心・要旨をとらえながら読む力を育て、基礎的な知識を活用する力に繋げられるように取り組む必要がある。

また、家庭学習への取り組みを促したことで、家庭での学習習慣が身につけている児童が増えてきている。その一方で、ゲームや携帯電話・インターネットなどを日常的に使う児童が増え、使用時間も長くなっている傾向が見られる。

4 平成29年度 目標と具体的方策

目標：児童一人ひとりが基礎的な知識・技能を確実に習得し、それぞれの力を高められるようにする。

(1) 学校組織としての共通の取り組み

○朝学習・昼学習

朝の15分(国語)・昼の15分(算数)を帯時間として、各学年児童の実態に合わせた学習内容に取り組み始めるようにする。この15分間の積み重ねによって国語・算数の基礎的な技能の習得と、自ら進んで学習に取り組む態度の育成をめざす。また、月曜の朝学習は全校読書タイムとして、どの学年の児童も本に親しむ時間を確保する。

○日々の学習指導の充実

児童の実態把握をしっかり行っただけで学習の評価規準を学年で共有し、児童の実態に合わせた教材研究を充実させる。各教科等の基礎・基本を明確にして日々の授業を充実させることで、わかったりできたりした喜びや、学ぶ楽しさが味わえる授業づくりに取り組む。

○家庭との連携

学校と家庭が連携して家庭学習に取り組めるようにし、基礎・基本の定着を図る。(学年×10分の家庭学習の推奨)

(2) 学年・教科等としての取り組み

- | | |
|--------|---|
| 1年 | ○「わかる」授業をめざして、導入・展開・まとめ・習熟の流れを大切にする。
○国語では、話したり書いたりする機会を多くし、自分の感じたことを素直に表現できるようにする。
○算数では、数量の概念を理解するために、具体物・半具体物を実際に操作する機会を多くもつようにする。 |
| 2年 | ○体験的活動の充実を図り、学習への意欲や興味を引き出すようにする。相手に自分の思いを伝えたり、説明したりする機会を多く設け、学び合う楽しさを味わえるようにする。
○国語では、話す事柄を順序立てて話す力や、大事なことを落とさないようにしながら興味をもって聞く力を育てる。
○算数では具体物の操作を通して数や立体の理解を深める。また、加法と減法の相互関係について理解し、式を用いて説明する力を育てる。 |
| 3年 | ○体験的な活動を取り入れた学習を行うことで、学習への意欲や興味を引き出す。話し合い活動の場を多く設け、コミュニケーションを通して互いの学びを深められるようにする。
○国語では、書く機会を多くし、構成を意識して文章を組み立てる力を育てる。また国語の学習に限らず、友達や先生の話聞く環境を作り、常に自分の思いや考えと比較しながら聞ける態度の育成に努める。
○算数では、算数タイムを活用し、繰り返し学習することにより知識・技能の定着を図る。 |
| 4年 | ○日々の学習の中から学習に結びつく課題を見つけられるようにする。
○国語では、前学年の学習内容から学習を進めるための基礎となる事項を想起させ、今年度の学習の素地となるようにしていく。既習の漢字の読み書きも反復練習を行い、定着に努める。また、家庭学習では音読を毎日続けることにより、活字に触れる機会や語彙力の向上を図る。
○算数では、基礎基本の定着のため、反復練習や既習の計算問題などを繰り返し取り組む。また、数学的な考えを養えるように、立式や考えを説明できる機会を多く設定する。 |
| 5年 | ○児童の興味・関心をもとに学習課題を設定し、児童相互で学び合える学習の場を作る。
○国語では、読む力をつけるために毎週の朝読書で様々な種類の本に触れる機会をもてるよう、学年文庫を利用できる環境を整えたり、長編作品を読んだりできるようにする。また、書くことの力の定着を図るために他教科でも書く機会を多く設定する。
○算数では、基礎基本の定着のため、反復練習や基本的な学習課題を大切に取り組む。また、理解力を高めるために学習した内容を活用する問題に取り組むことや、学習した内容をまとめたり発信したりするようにする。 |
| 6年 | ○児童一人ひとりの意欲の高さを生かせる授業づくりを目指す。
○国語では、文章を書く力をつけるために、日頃の授業から文章を丁寧に読み取ることによって、前後の文章に合わせた文章表現の方法や、構成をそろえた文末表現ができるようにする。
○算数では、算数タイムを活用して、計算問題や文章問題に繰り返し取り組むことにより、技能をさらに身につけられるようにする。また、数学的な考えを養えるように、「なぜこの式を導いたのか。」等、自分の考えを説明する機会を多く設定する。 |
| 個別支援学級 | ○個別的教育支援計画・個別の指導計画を作成し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を行う。
○自立学習や校外学習を通して社会的な自立の基礎を養い、さらには家庭と連携してそれらが身につくよう継続的な指導・支援を行う。 |